

# GiSEN

## 第113期 営業報告書

自 2024年4月1日  
至 2025年3月31日



岐セン株式会社

## 目 次

株主の皆さまへ	1
事業報告書	2
グラフによる業績の推移	4
新技術紹介	6
貸借対照表	8
損益計算書	10
株主資本等変動計算書	11
個別注記表	12
会社の概況	14
役員	16
株主メモ	17



# 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第113期（自：2024年4月1日 至：2025年3月31日）の当社営業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当事業年度は、第3次G I S E N中期経営計画の初年度として、黒字化を図る基盤確立を目指し、全社一丸となって弛まぬ努力と行動、そして創意工夫に取り組んでまいりました。

経済環境に目を向けると、約30年ぶりに高水準な賃上げにより回復基調が見られたものの、ウクライナ問題や中東情勢の長期化により、原燃料価格の高騰が続く厳しい状況が続きました。こうした環境のもと、当社は染色加工事業の黒字化体質の確立を最重要課題に据え、上期には不採算品の撤退と「バゼロ」加工、中東を含めた輸出拡大に注力しました。下期においては、得意とする春夏商品の受注が国内生産リスク回避の影響で伸び悩みましたが、別注ユニフォーム及び中東民族衣装の堅調な受注によりこれを補い、染色加工事業全体として損益改善が進展しました。

一方、テキスタイル販売と木材染色事業は減収となり、減益要因となりましたが、当期純利益90百万円の黒字を達成することができました。

これもひとえに株主の皆さまのご理解、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

しかしながら、誠に遺憾ではありますが企業体質強化のため当期の配当につきましては、株主の皆さまには申し訳なく存じますが、無配とさせていただきます。

中期ビジョンとして、「夢・勇気・熱意・信念をもってオンリーワンかつナンバーワンの付加価値創造企業」となり社会に貢献することを目指すと共に永続的な利益創出を図ります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも引き続き格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年6月

取締役社長 後藤 勝則



# 事業報告書

(自：2024年4月1日 至：2025年3月31日)

## 1. 会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過および成果

当期におけるわが国の経済は、円安による物価高の影響が一部消費を抑制する状況にもかかわらず、約30年ぶりの高水準な賃上げの浸透とインバウンド需要の拡大により、回復基調を維持しました。一方で中東およびウクライナ情勢の長期化に伴う、原燃料価格の高騰や、年明け以降は米国の保護主義的政策も加わり、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

繊維業界におきましては、百貨店を中心とした衣料販売が回復基調にあるものの、原燃料の高止まりにより生産コストが上昇しております。加えて、国内のファッション衣料では、国内生産リスクの回避策として中国安価品への転換が進むなど業界を取り巻く環境は、一段と予断を許さない状況が続いております。

このような状況のもと、当社は「第3次中期経営計画」の初年度として、継続的な黒字化の基盤確立を目標に掲げ、不採算品の縮小・撤退を進めるとともに、コスト上昇分の適正な価格転嫁を図る為に、適正加工料金設定と値上交渉を進めてまいりました。また、自助努力としては3S・省エネプロジェクトを継続すると共に工程改善などを図り、費用削減の取組みを強化してまいりました。成約に繋げる商品開発においては、当社の強みである開発力を活かして、タイムリーな開発と「サステナビリティ」をキーワードにした商品(e c o m o<sup>®</sup>)の提案を強化してまいりました。これにより、SDGs活動も積極的に推進しております。

#### 【染色加工事業】

ファッション関係は、前半ニット及び起毛商品撤退に伴う補完策が苦戦し、さらに後半は得意とする春夏商品が国内生産リスク回避策として中国転換が加速し、低迷いたしました。その中でもナイロン素材の「バゼロ」商品と欧米輸出が業績を牽引いたしました。

ユニフォーム関係は、企業別注品、官需品、難燃商品が好調に推移いたしました。中東民族衣装関係は、円安効果と新規商品の受注増により堅調な成長を見せました。一方、人工皮革関係は、年間を通じて低調でした。

結果、当期の当事業の売上高は2,915百万円と前期と同額を維持しました。

#### 【テキスタイル販売事業】

前半は中国向け定番品の受注が停滞し苦戦いたしました。後半はナイロン素材「バゼロ」商品の受注増と製品在庫販売の強化により挽回を図りました。

結果、売上高は439百万円と前期比94百万円(△17.7%)の大幅減収となりました。

#### 【木材染色事業】

前期にスポット受注したドアトリムの減少により、売上高111百万円と前期比48百万円(△30.5%)の大幅減収となりました。

#### 【ステープル加工事業】

当該事業の売上高は76百万円となり、前期比2百万円(△3.4%)の減収となりました。

以上の結果、当期の業績といたしましては、全売上高は、3,585百万円と前期比151百万円(△4.0%)の減収となりました。

利益面では、不採算品の撤退および各事業における価格転嫁の進行により、損益が改善しました。しかし、テキスタイル販売と木材染色の大幅な減収が利益を押し下げる要因となりました。その中で国のエネルギー補助金による費用減少や全社的に省エネ・工程改善などを通じたコスト削減が利益確保に寄与いたしました。

結果、営業利益は前期比94百万円減の81百万円、経常利益は前期比82百万円減の80百万円と減収に伴う大幅減益となりました。

最終的に、保険金収入などの特別利益計上により、当期純利益は90百万円(前期比△101百万円)の黒字となりました。

#### (2) 設備投資の状況

当期中に実施した設備投資につきましては、安全・環境改善費用として53百万円、省エネルギー対策費用として35百万円、生産性・品質向上機器更新費用として17百万円など合計117百万円の投資を行いました。

#### (3) 資金調達の状況

上記設備投資資金等で350百万円の銀行借入れをおこないました。

#### (4) 対処すべき課題

今後のわが国の経済見通しは、物価高騰による消費減速が懸念されますが所得環境の改善や賃金上昇が消費を押し上げる要因となり、緩やかに回復基調で進むと予測しています。また、政府の経済対策である「103万円の壁」の引上げやエネルギー補助も消費喚起になると予想しています。一方、最大の懸念事項は、米国のトランプ政権の関税政策が日本を含めた世界経済に負の影響を及ぼす可能性があり、先行きは依然不透明な状況が続くと予想されます。

このような事業環境のもと、当社は、継続的な黒字化の基盤確立を目標に掲げ、あるべき姿に向かって市況情報を的確に把握しながら、得意とする商品のタイムリーな開発を進めると共に、サステナビリティをキーワードにした提案を強化してまいります。また、非価格競争力を高めることで受注・生産強化を図り、持続的利益が創出できる付加価値創造企業“オンリーワンかつナンバーワン企業”を目指します。さらに、従業員が物心両面で幸せになることを推進してまいります。

本年度は、重要課題として引続き利益体質への変革として、主力の染色加工事業の再構築を図ります。具体的には、コスト上昇分の価格転嫁と取引条件改善を推進するとともに、不採算品の縮小・撤退を念頭に置き価格交渉を進めてまいります。また、全社取組として3S・省エネプロジェクトを通じて全従業員で不良損失削減・工程改善・生産リードタイム短縮などの費用削減に努め、利益創出を図ります。さらに、円安下での欧米への輸出の強化や、サステナブル商品(ecomo®)の開発促進をしてまいります。

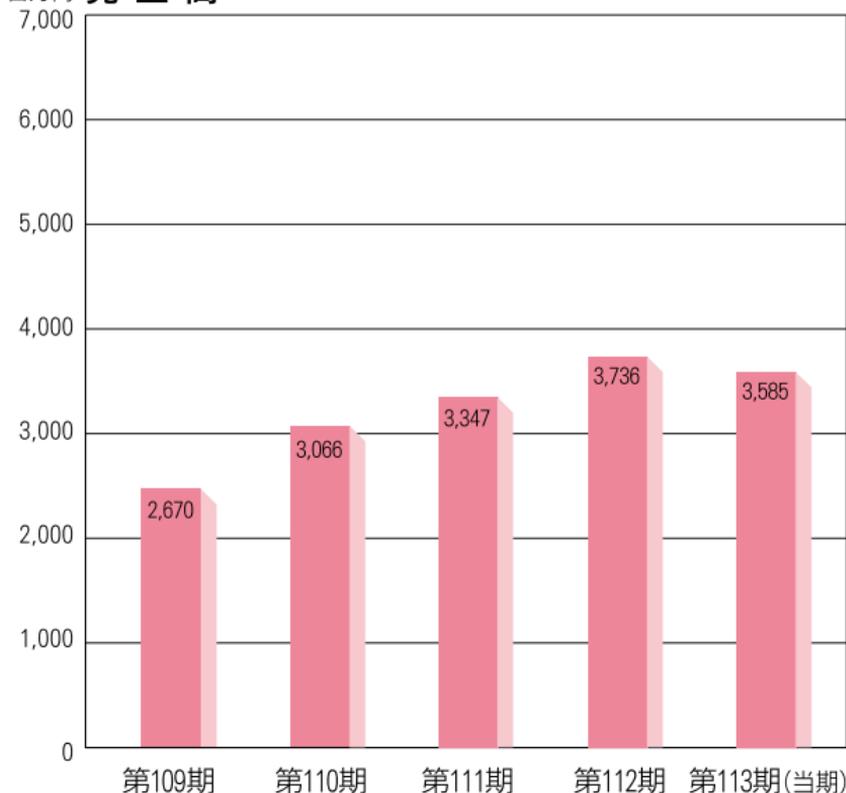
テキスタイル販売事業は、非価格競争力の強化により既存顧客との深耕を図ると共に、RCS認証システムを取得して輸出強化を図ってまいります。

木材染色事業につきましては、次期車輻部材の開発強化と継続商品の生産体制確立により、収益基盤の強化を図ってまいります。ステーブル加工事業は、安定稼働を継続して売上・利益を確保してまいります。

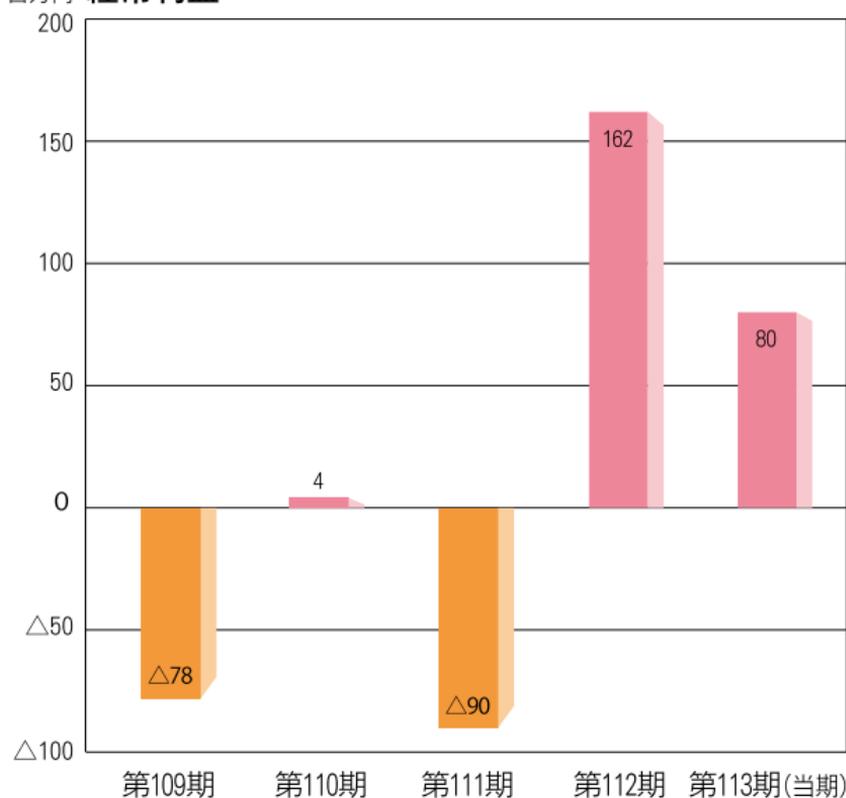
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

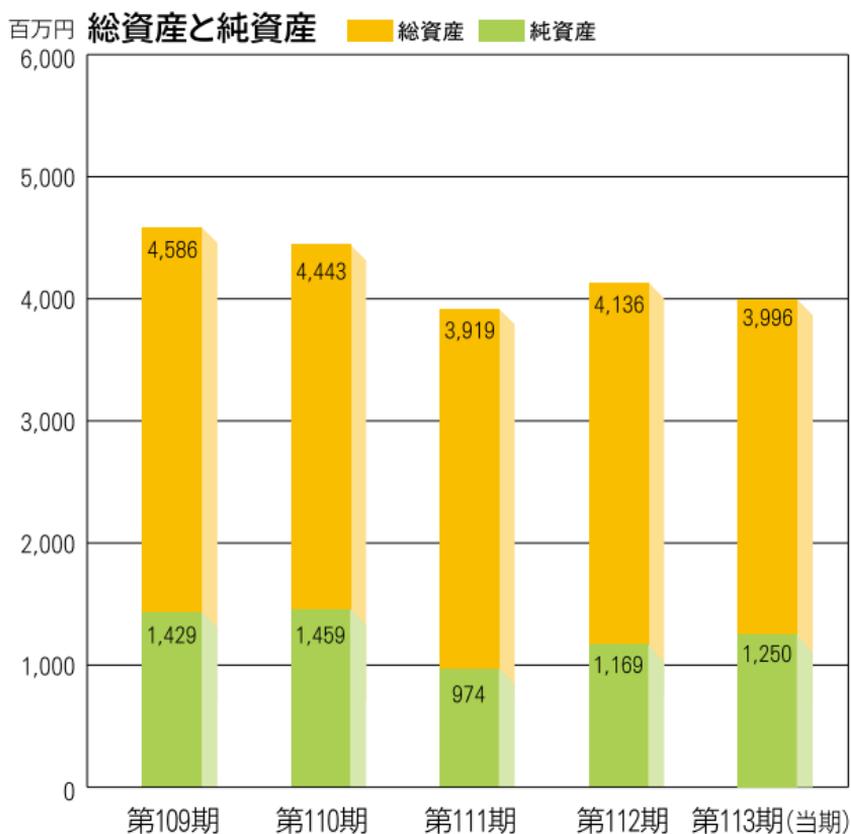
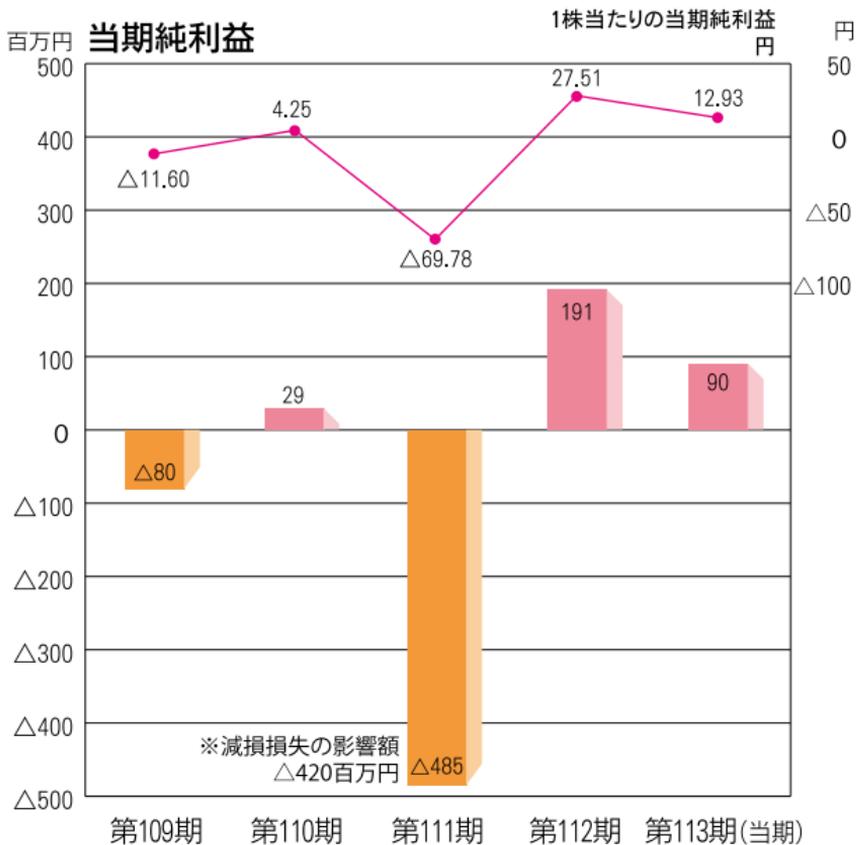
# グラフによる業績の推移

百万円 売上高



百万円 経常利益





# 新技術紹介

## スーパーバゼロ

ナイロン素材へのコンパクト加工のバゼロを更に進化させ、  
極限まで追い込んだ特殊風合い商品



ポリエステル/ナイロン複合  
素材を対象とした環境配慮  
型ハイブリッド染色加工技術

# 貸借対照表

(2025年3月31日現在)

科 目	金 額
(資 産 の 部)	
流 動 資 産	1,568,864
現 金 及 び 預 金	602,715
受 取 手 形	123,852
売 掛 金	362,956
商 品	36,471
仕 掛 品	151,553
原 材 料	199,588
貯 蔵 品	59,963
そ の 他	32,012
貸 倒 引 当 金	△ 250
固 定 資 産	2,427,973
有 形 固 定 資 産	2,313,731
建 物	474,572
構 築 物	69,101
機 械 及 び 装 置	177,942
車 両 運 搬 具	1,458
工 具、器 具 及 び 備 品	25,337
土 地	1,425,596
リ ー ス 資 産	39,459
建 設 仮 勘 定	100,262
無 形 固 定 資 産	4,589
ソ フ ト ウ エ ア	4,406
電 話 加 入 権	183
投 資 そ の 他 の 資 産	109,651
投 資 有 価 証 券	29,842
関 係 会 社 株 式	74,500
出 資 金	345
そ の 他	4,963
資 産 合 計	3,996,837

(単位：千円)

科 目	金 額
(負債の部)	
流動負債	1,002,325
支払手形	4,859
電子記録債務	123,200
買掛金	113,946
1年内返済予定の長期借入金	290,544
リース債務	25,466
未払金	256,802
未払法人税等	481
賞与引当金	106,853
設備関係支払手形	13,933
その他	66,238
固定負債	1,744,007
長期借入金	868,641
リース債務	24,894
繰延税金負債	22,147
再評価に係る繰延税金負債	383,721
退職給付引当金	413,489
役員退職慰労引当金	29,841
その他	1,272
負債合計	2,746,332
(純資産の部)	
株主資本	513,853
資本金	100,000
資本剰余金	341,000
資本準備金	88,200
その他資本剰余金	252,800
利益剰余金	77,531
その他利益剰余金	77,531
固定資産圧縮積立金	36,209
繰越利益剰余金	41,322
自己株式	△ 4,678
評価・換算差額等	736,651
その他有価証券評価差額金	5,874
土地再評価差額金	730,776
純資産合計	1,250,505
負債純資産合計	3,996,837

# 損益計算書

(自：2024年4月1日 至：2025年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		3,585,227
売 上 原 価		3,184,267
売 上 総 利 益		400,960
販売費及び一般管理費		319,756
営 業 利 益		81,203
営 業 外 収 益		
受取利息及び受取配当金	2,907	
助 成 金 収 入	2,790	
保 険 金 収 入	6,063	
そ の 他	10,456	22,218
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	19,077	
そ の 他	4,133	23,211
経 常 利 益		80,210
特 別 利 益		
補 助 金 収 入	600	
保 険 金 収 入	19,636	20,236
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 売 却 損	4,315	4,315
税引前当期純利益		96,131
法人税、住民税及び事業税	8,396	
法人税等調整額	△ 2,295	6,101
当 期 純 利 益		90,030

# 株主資本等変動計算書

(自：2024年4月1日 至：2025年3月31日)

(単位：千円)

項目	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 計
当期首残高	100,000	88,200	252,800	341,000
当期変動額				
当期純利益				
自己株式の取得				
圧縮積立金の取崩				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	100,000	88,200	252,800	341,000

項目	株主資本				
	利益剰余金			自己株式	株主資本計
	その他利益剰余金		利益剰余金計		
	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	42,148	△ 54,647	△ 12,498	△ 4,645	423,856
当期変動額					
当期純利益		90,030	90,030		90,030
自己株式の取得				△ 33	△ 33
圧縮積立金の取崩	△ 5,939	5,939	-		-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△ 5,939	95,970	90,030	△ 33	89,997
当期末残高	36,209	41,322	77,531	△ 4,678	513,853

項目	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差 額 金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	6,267	739,325	745,593	1,169,449
当期変動額				
当期純利益				90,030
自己株式の取得				△ 33
圧縮積立金の取崩				-
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△ 392	△ 8,548	△ 8,941	△ 8,941
当期変動額合計	△ 392	△ 8,548	△ 8,941	81,055
当期末残高	5,874	730,776	736,651	1,250,505

# 個別注記表

## 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1. 有価証券の評価基準および評価方法

- (1) 子会社株式および関連会社株式…移動平均法に基づく原価法
- (2) その他有価証券
  - ① 市場価格のない株式等以外のもの……時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
  - ② 市場価格のない株式等……移動平均法に基づく原価法

### 2. 棚卸資産の評価基準および評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

- (1) 原材料および貯蔵品…移動平均法
- (2) 仕掛品……月次移動平均法
- (3) 商品……最終仕入原価法

### 3. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産(リース資産を除く)  
定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物および構築物 5～50年

機械装置および運搬具 2～8年

- (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

- (3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### 4. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金……債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金……従業員に対する賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額のうち当期負担額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当期末における自己都合退職金要支給額から年金資産を控除した額を計上しております。
- (4) 役員退職慰労引当金…役員退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金に関する内規に基づく期末要支払額を計上しております。

#### 5. 収益および費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容は、染色加工業務であり、履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)として、主に染色加工を完了した時点で収益を認識しております。

#### 6. その他の計算書類作成のための基本となる重要な事項

##### 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

# 会社の概況

(2025年3月31日現在)

## (1) 主要な工場・営業所および事業内容

事業所	主要な事業内容
本社・穂積工場 (岐阜県瑞穂市)	織物・編物・不織布の染色加工 木材関連事業および不動産賃貸業
大阪営業所 (大阪市中央区本町)	受注業務

## (2) 品目別・事業別売上高

(単位：百万円)

区分	前期		当期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	差額	増減率
		%		%		%
<b>染色加工事業</b>	<b>2,915</b>	<b>78.0</b>	<b>2,915</b>	<b>81.3</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>
織物の加工	2,457	65.8	2,616	73.0	158	6.5
編物の加工	167	4.5	17	0.5	△149	△89.3
不織布の加工	225	6.0	212	5.9	△13	△5.9
その他	64	1.7	69	1.9	5	8.2
<b>その他事業</b>	<b>821</b>	<b>22.0</b>	<b>669</b>	<b>18.7</b>	<b>△151</b>	<b>△18.5</b>
テキスタイル販売事業	533	14.3	439	12.3	△94	△17.7
木材染色事業	160	4.3	111	3.1	△48	△30.5
ステーブル加工事業	79	2.1	76	2.1	△2	△3.4
その他	47	1.3	41	1.2	△5	△12.5
<b>合計</b>	<b>3,736</b>	<b>100.0</b>	<b>3,585</b>	<b>100.0</b>	<b>△151</b>	<b>△4.0</b>

## (3) 重要な子会社等の状況

会社名	資本金	出資比率	主要な事業内容
株式会社ギフパッキング	40百万円	50.0%	包装・梱包・保管・運送業
株式会社 岐阜バイオマスパワー	45百万円	62.2%	発電事業

(注) 1. 株式会社ギフパッキングは当社の持分は100分の50であります  
が実質的に支配しているため、子会社としております。なお、同  
社は特定子会社であります。

2. 株式会社岐阜バイオマスパワーは、特定子会社であります。

#### (4) 従業員の状況

従業員数	前期末比 増・減	平均年齢	平均勤続年数
143名	0名	41.0歳	17.6年

(注) 出向者、パート従業員は含んでおりません。

#### (5) 主要な借入先

借入先	借入金残高
	百万円
株式会社三菱UFJ銀行	542
日本政策金融公庫	292
株式会社十六銀行	207
株式会社大垣共立銀行	94
岐阜県信用農業協同組合連合会	21

#### (6) 会社の株式に関する事項

- |            |          |
|------------|----------|
| ① 発行可能株式総数 | 28,000千株 |
| ② 発行済株式の総数 | 7,056千株  |
| ③ 株主数      | 620名     |

#### (7) 大株主

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
東レ株式会社	1,408	20.24
岐セン従業員持株会	400	5.75
株式会社三菱UFJ銀行	318	4.57
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	277	3.99
近藤祐司	225	3.23
株式会社日阪製作所	200	2.87
スタイレム瀧定大阪株式会社	144	2.07
木村哲哉	139	2.00
オー・ジー長瀬カラーケミカル株式会社	135	1.95
山口晋平	119	1.71

(注) 持株比率は、自己株式(95,106株)を控除して計算しております。

# 役員

(2025年6月23日現在)

代表取締役社長	後藤 勝則
常務取締役	後藤 康之 (業務全般統括)
取締役(非常勤)	西村 友伸 (東レ(株) テキスタイル事業部門長)
監査役	鈴木 康裕
監査役(非常勤)	高山 裕幸 (東レ(株) 繊維事業管理室長)

.....  
(注) 本営業報告書中の記載金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

また、割合は表示単位未満を四捨五入して表示しております。

## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先)	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
単元株制度	1単元の株式の数は1,000株
公告掲載新聞	中部経済新聞

(お知らせ)

株式関係のお手続き用紙のご請求は、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンターでも承っております。

(受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9：00～17：00)

電話 (通話料無料) 0120-232-711 (東京)  
0120-094-777 (大阪)

上記電話番号がご利用できない場合

(通話料有料) 042-204-0303

インターネットホームページ <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

※表紙写真：Painted by SAKURA SENBA /「初桜」oilpainting(2025)



岐セン株式会社

岐阜県瑞穂市牛牧758番地

TEL 058-326-8123